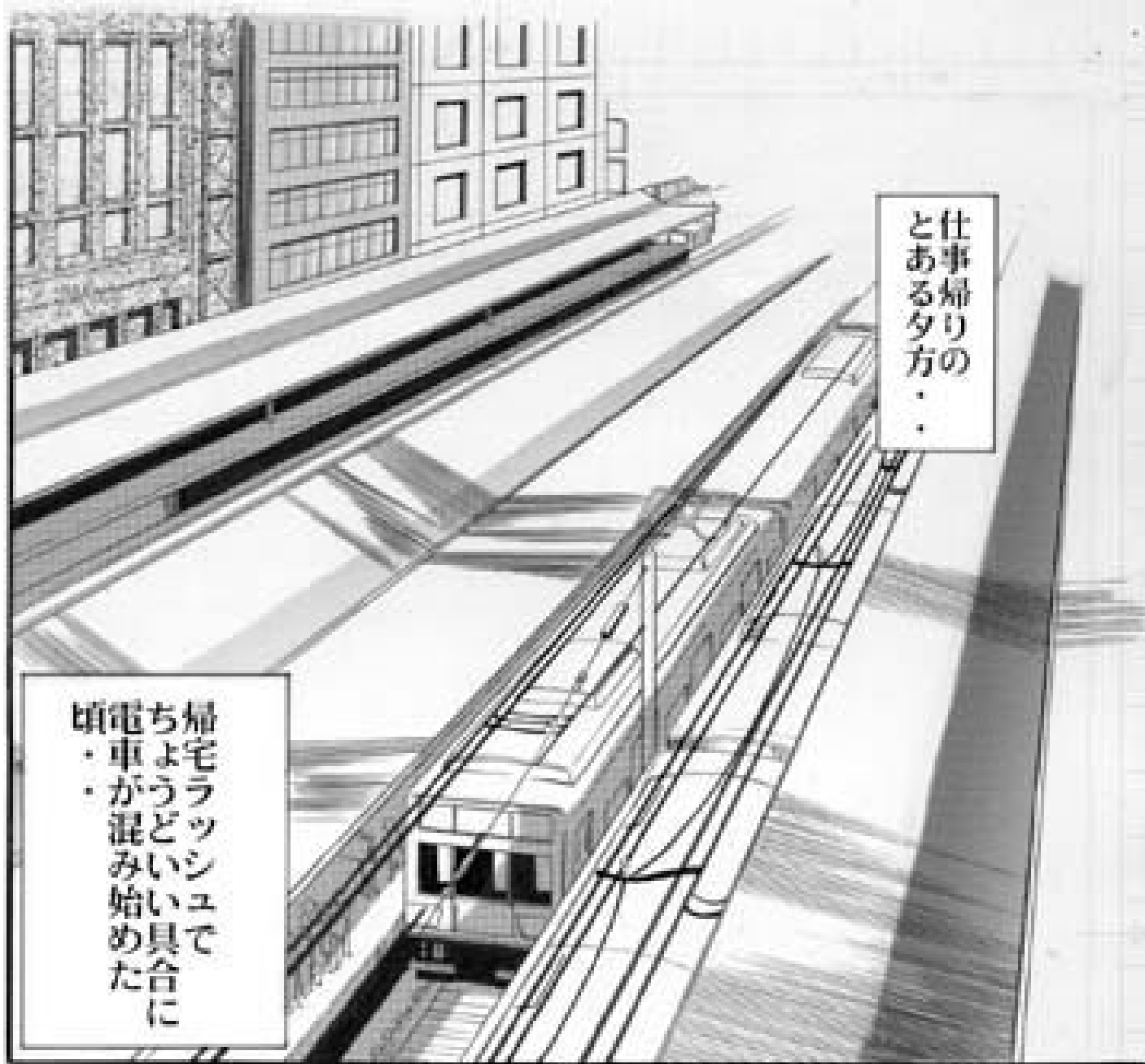


一期一会

いちいちえ

烏賊松





仕事帰りの
とある夕方・

帰宅ラッシュで
ちようどいい具合に
電車が混み始めた
頃・



その娘を
見つけた

帰宅途中らしき
4人組の女子高生



さすがに
騒がしい

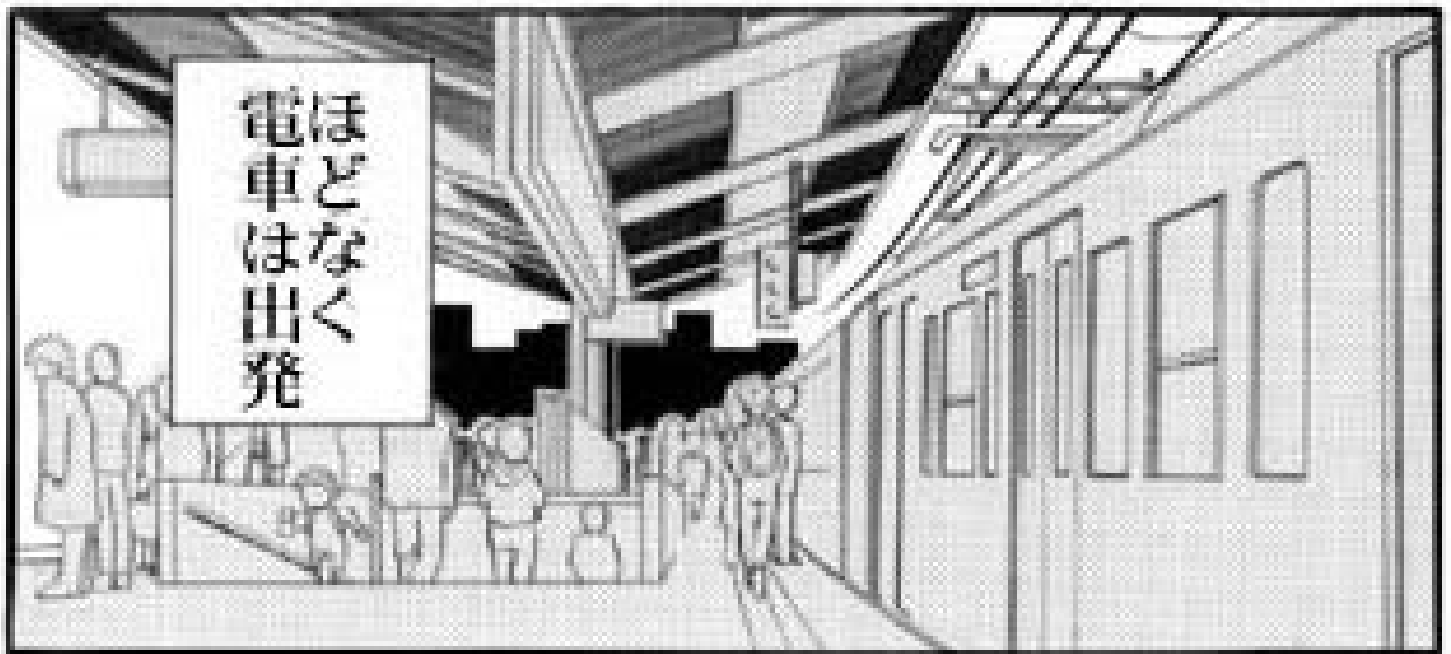
その中で
おとなしそうな
可愛いコが一人



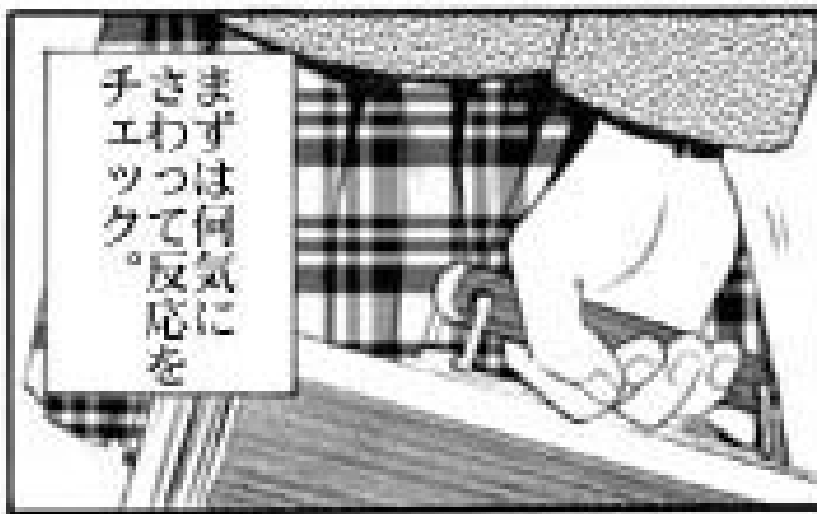
普段なら
絶対引な
うわなの
プロの
うちの
一人



連絡の
日が続
いてた
からか
だるさ
が



ほとんどなく
電車は出発



まずは何気なしに
さわって反応を
チェック。



タイミング良く
その娘の後ろから
列車に乗り込むとら

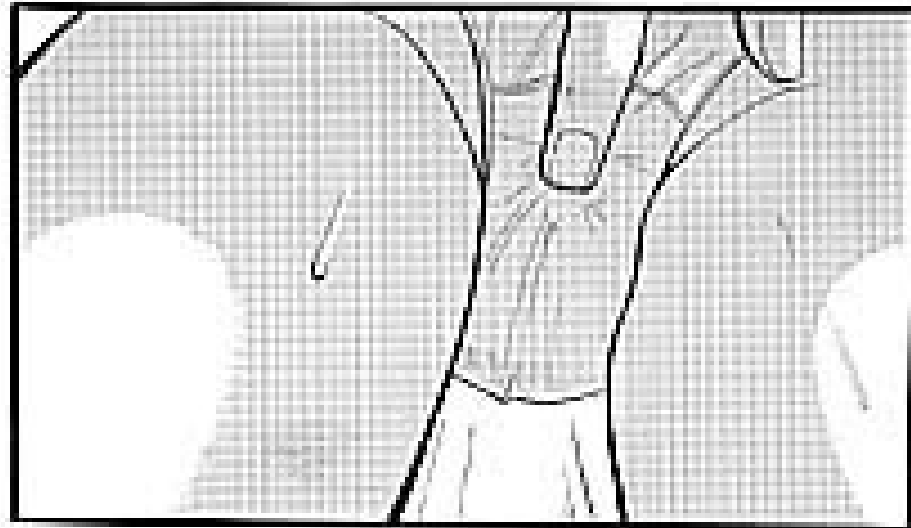
もちろんな
めかり無く
べストな
ポジションを
キープ

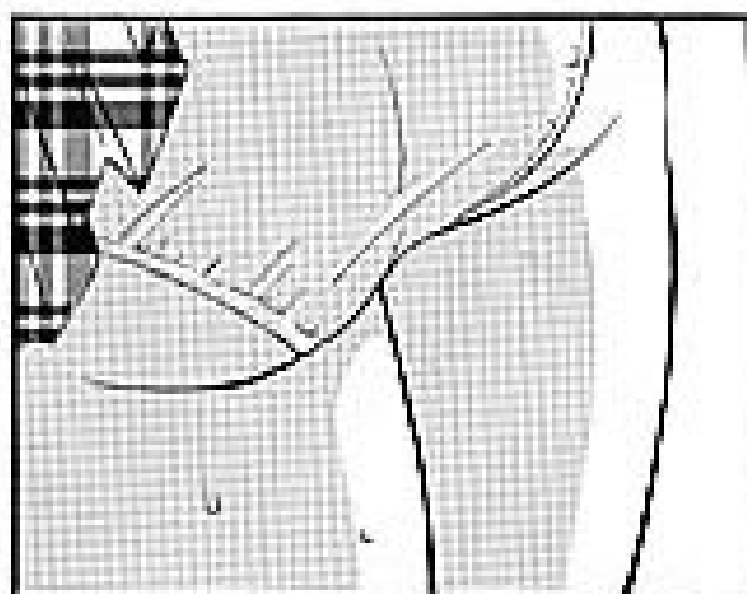
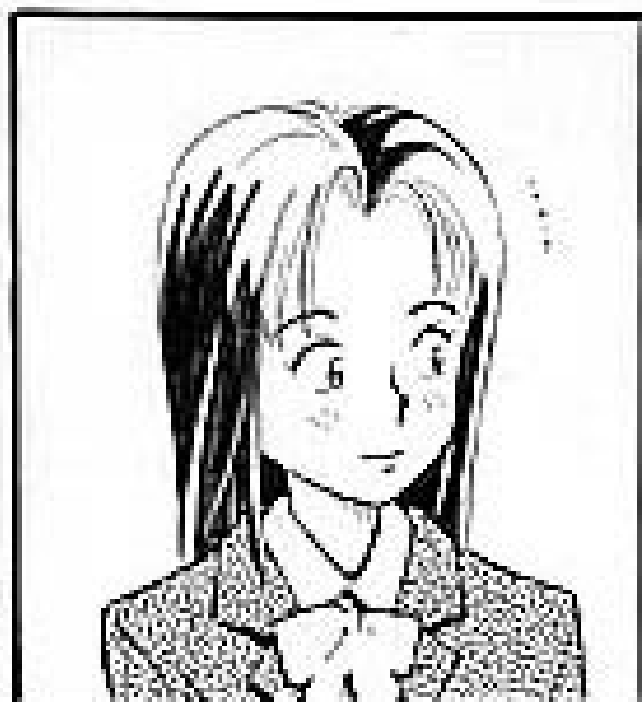


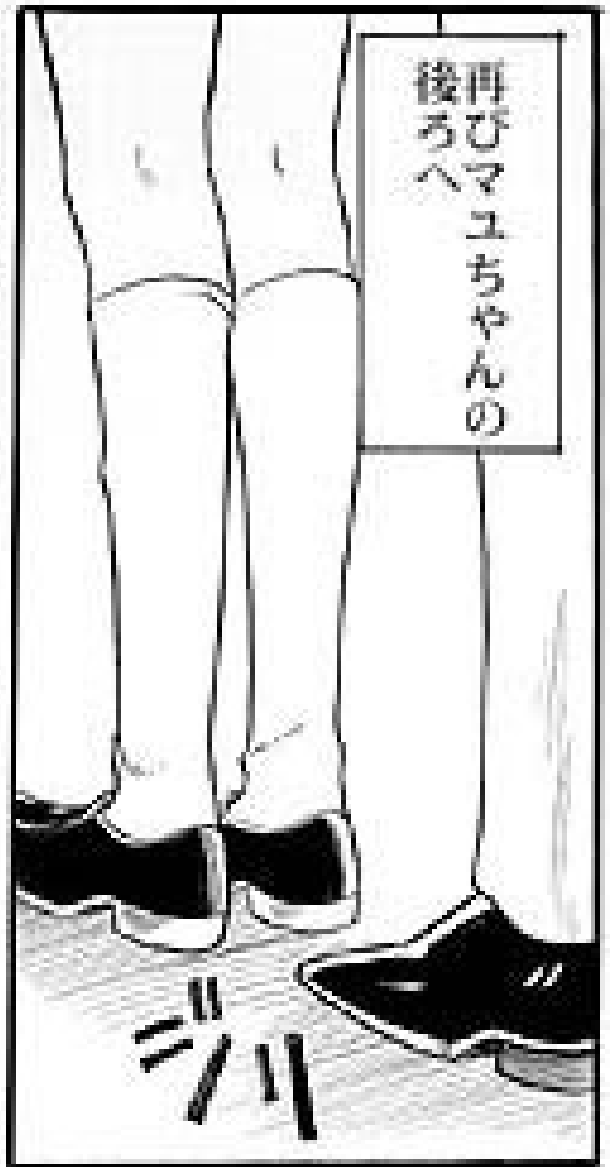
抵抗する気配
なし。
いけそうだ

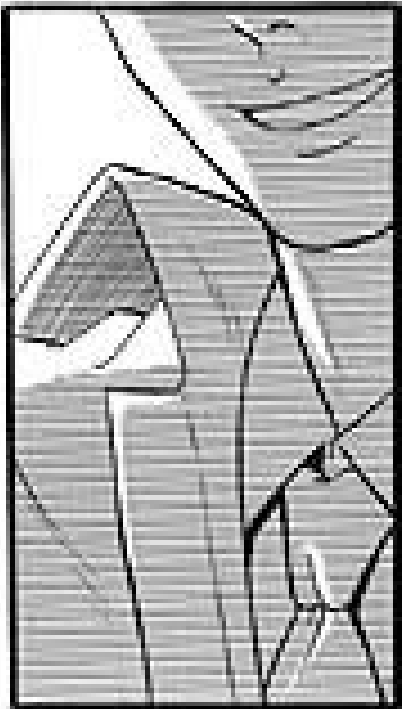
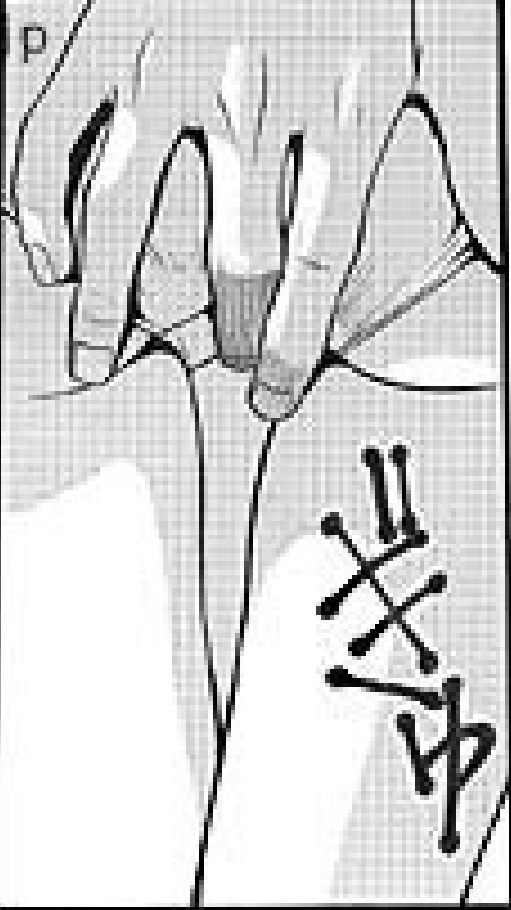


パンティから
お尻の割れ目に
そつて指を滑り
込ませていく。





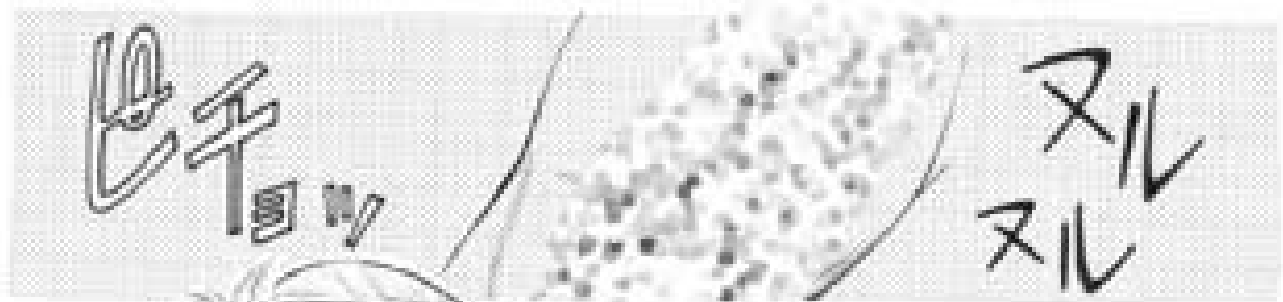




これ以上じらすのは
かわいそうだ



ソコはもう
パソコも
上からでも
十分に分か
るほど
湿っていた



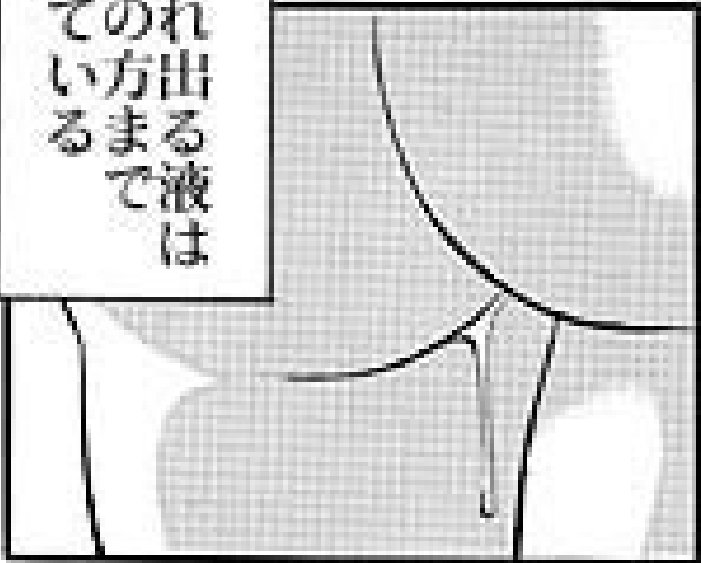


無理は禁物...


ママちゃんに力が入った



あふれ出る液は
お尻の方まで
たれている




更に先に進み一番敏感な部分までたどり着くと




ソコはもう
たっぶり
濡れていた



おかげで
又入ると
指が又入ると
いく



しあがり
友達の
なでが
ハシの
せめら
められ
ない



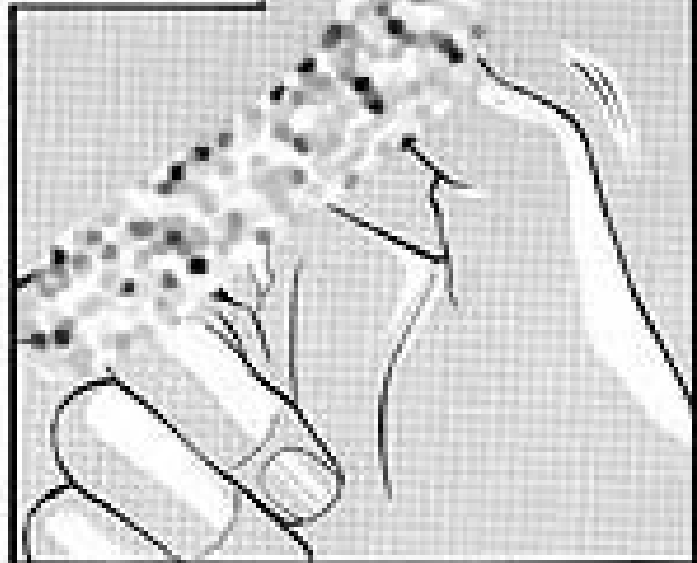
指一本
ギュー
ギュー
つけて
くる

気持ちよすぎて
我を忘れそうだ



余り強く
指を動かすことが
できないので

親指で
おしりの穴を
つついてみる



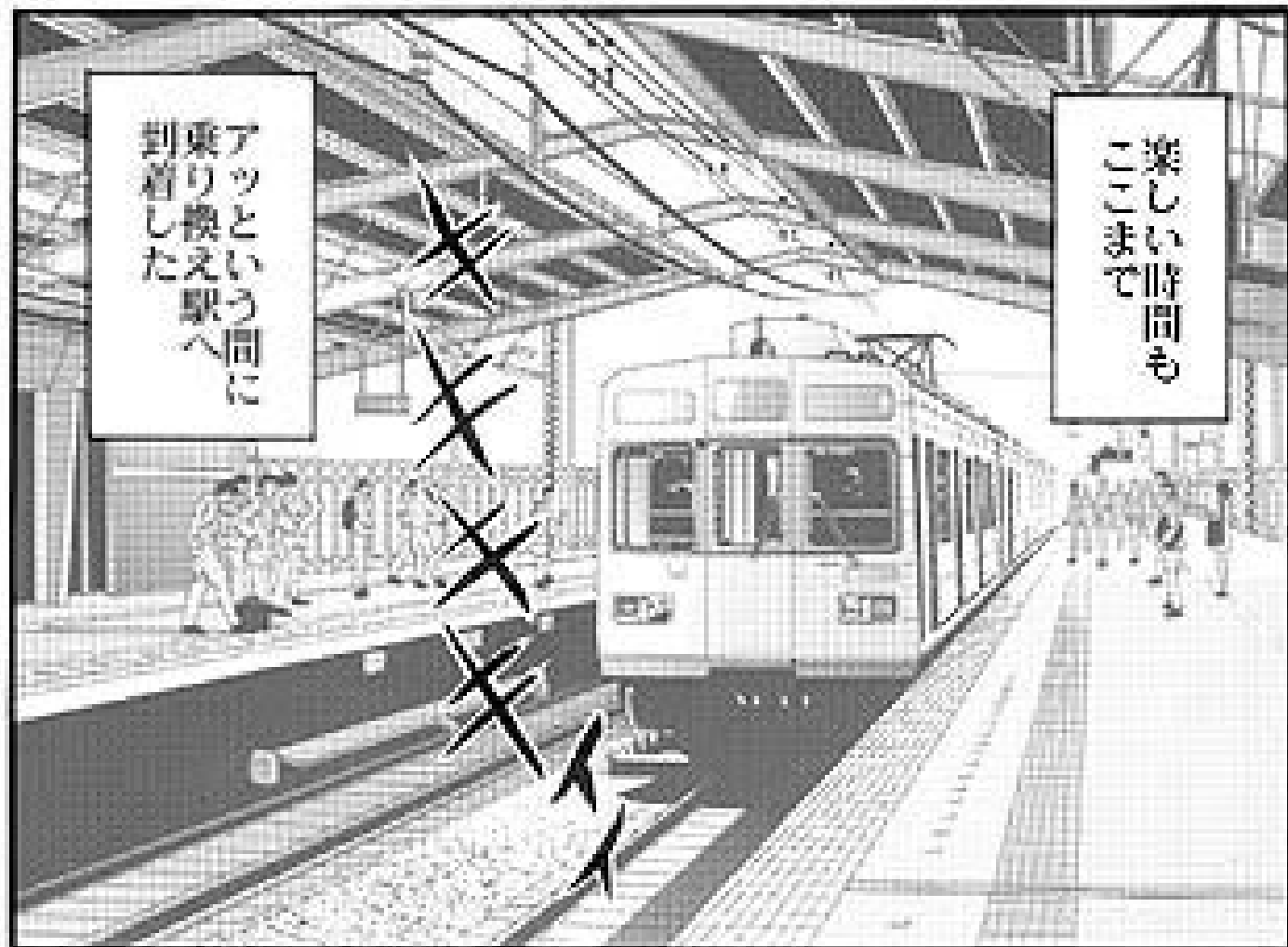
マユちゃんは
気持ちよさそうに
腰を動かす

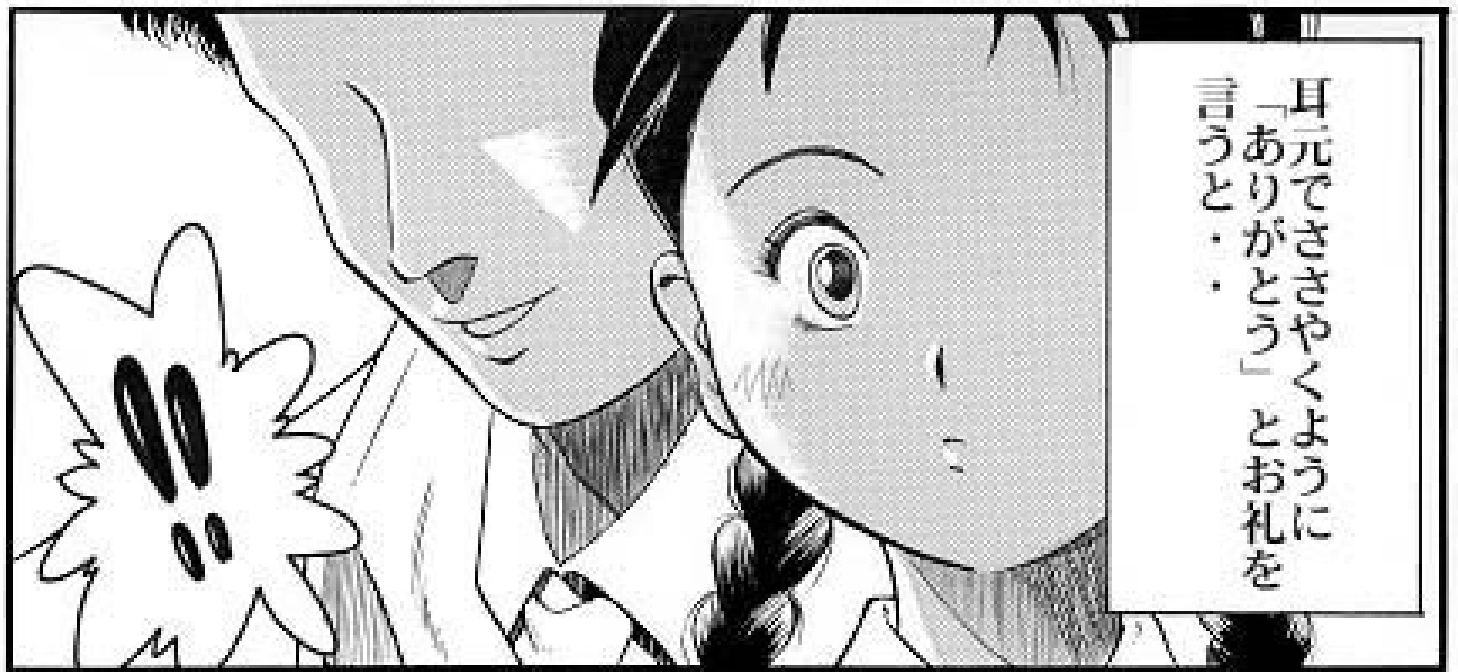


喜んでくれている
ようだ



つかっ





耳元でささやくように
「ありがとう」とお礼を
言うど・・



マユちゃんはニコツと
笑って人混みの階段へ
消えてゆきました

久々に充実した時間。
追いかければ・・

いやいや・・
一期一会。
それがいいんじゃないですか